

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・お客様が安全安心に心穏かに生活できるホーム ・お客様に尊厳の気持ちを持ち笑顔で接し自立をお手伝いします。	法人の社是やホーム理念については事務所に掲示し、ホーム会議の資料にも添付し読み合わせを行い共有に努めている。家族に対しては利用契約時に説明すると共に運営推進会議の議事録に添付し取り組み姿勢を明確にしている。職員の中に理念にそぐわないような言動等があった場合には管理者が個人別に指導を行い、それに沿った支援に取り組むようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近くの喫茶店に行き地域の方と交流をしている。	自治会費を納め地域の情報は町内会長から頂いている。松本市の行事「青山さま」には子供達が来訪し歌を披露し利用者も笑顔で楽しんでいる。近くの筑摩神社のお祭りの際には見物に出掛け地域の人々ともふれ合っている。毎月、紙芝居のボランティアの来訪があり利用者も楽しみにしている。また、近くの保育園児の来訪も定期的にあり利用者ともふれあい、合わせて中学生の職場体験の来訪も引き続き行われ、食事の手伝い、レクリエーション等で関わっている。更に、今年度より高校生4名の初任者研修の受け入れを行い、その高校生からのお礼のプレゼントも廊下の壁に掲示されている。歯科大学生の歯科衛生実習の受け入れも4名あり、口腔ケアの実習で利用者とふれあう時間を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たの事業所と交流し意見交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来ていないところなど話している。	2ヶ月に1回奇数月の最終土曜日の午前中に、家族代表、民生委員、他グループホーム管理者、地域包括支援センター職員、ホーム建物の大家さん、ホーム関係者の出席で、家族会も兼ね開催している。利用者状況や活動の報告、事故報告、行事予定の説明、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。特に家族の出席に力を入れ、希望をお聞きすると共にホームの活動に対しての協力もお願いしている。また、全家族に議事録をお届けしホームの状況をお知らせしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター、認定調査員、の方と情報交換を行なっている。	地域包括支援センターとの連携を深め、入居相談を含めた様々な事柄について相談している。市の介護相談員の来訪が月1回2時間ほどあり、利用者との交流の中で気づいたことを報告いただき支援に役立っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し行い、半数位の家族が立ち会われ話をされている。地域包括支援センター主催の「グループワーク」にも出席し、地域の民生委員や常会長との交流を深めている。	

ニチイケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期定期に会議などで研修会を行なっている。。	身体拘束を必要とする利用者はなく、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠されている。外出傾向の強い利用者があるが家族の協力も頂きながら散歩に出掛けたり、地域包括主催の「サロン」に出掛け、気持ちを落ち着かせるようにしている。また、転倒の危惧のある方については家族と相談の上センサーマットを使用している。毎月のホーム会議の席上拘束をテーマにした研修会を行い意識を高め取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会をホーム会議などで行いどんな事が虐待になるか学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援を心がけているが成年後見人制度は学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行なう時に時間をかけて重要なことは説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出勤した時に意見や様子を聞いている。	殆どの利用者は職員の問い掛けに対し意思表示の出来る状況であり、きめ細かく寄り添うことで思いを受け止めるようにしている。家族の来訪は2日に1回来訪される方から月2～3回と来訪頻度は高い。家族会は運営推進会議に合わせ2ヶ月に1回開催している。また、ホームの様子は2ヶ月に1回発行されるお便り「ほほえみ通信」でお知らせし、個人別の生活状況は計画作成担当者より手紙でお知らせしている。	運営推進会議に合わせ家族会を実施されているが出席者が少ないとのこともあり、多くの家族来訪の下、利用者、家族、職員が一体となった本当の意味での家族会を開かれることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やホーム議では話し合い反映していている。	月1回ホーム会議とユニット会議を開催している。ホーム会議では管理者会議の伝達事項、各種勉強会、意見交換等を行い、ユニット会議ではカンファレンスも兼ね利用者個々の状況について話し合いをしており活発な意見交換の場となっている。職員のキャリアアップ制度があり、入社以来勤務500時間を超えた段階で法人独自のテストと面接を行い評価に繋げている。合わせて必要に応じ個人面談も行き、悩みごとの解消やスキルアップのための助言などを得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料水準、労働時間規定道理行なっている。向上心がもてるように、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に開かれる研修会や講義の参加を促している。又職員一人ひとりの力量を把握し、働きながらトレーニングを進め、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会の参加により同業者との交流を深め、意見交換をすることによりサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出勤した時に困ってる事など聞く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ケアマネが安心出来る様に話を聞きサービスに導入出来る様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とその都度話し合いをし以降を聞き他のサービスの導入に結びつけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人の認知症の症状に合った日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら支援出来る事を支援してる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で喫茶店に行かれたり包括支援センターの支援を受けながら行なう様にしている。	家族より連絡を頂き、友人や近所の方が来訪され利用者や寛ぎのひと時を過ごしている。また、馴染みの美容院に出掛けたり地域包括主催の「サロンおいでや」に出掛け楽しませている利用者もいる。毎年利用者一人ひとりの手作り年賀状を家族にお出し喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話ができる方は自由には話頂く様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で様子を聞く様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービスが困難な場合は、ご家族・ご本人と話し合い検討している。	日々利用者と接する中、言葉や表情、反応で希望や意向を受け止め支援に取り組んでいる。利用者の好きなお茶、レモンティー、ミルクティー等を提案し選んでいただいたり、入浴介助の際には着替えの提案もし「YES」「NO」で答えられるようにし利用者の思いを受け止めている。また、家族からお聞きした過去からの生活歴も参考にしながら日々気づいた言動等は業務管理日誌に纏め、出勤時に確認すると共に申し送りでも共有し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までやってこられた事は続けてもらうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	掃除や食器拭きなど日常生活を送れる様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議やその都度状態が変化した時に話あいをし介護計画に導入している。	職員は1~2名の利用者を担当し、季節毎の衣替え、足りない物の補充等を行っている。ユニット会議の席上、計画作成担当者が同席し気づいた事柄等、意見を出し合いモニタリングを行い、短期目標を3ヶ月、長期目標を6ヶ月としプランの見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。家族の希望は来訪時や電話にてお聞きし、プランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事があれば介護記録に記入し計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、その時々生まれるニーズを1つの考えている。		

ニチイケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が絵本を読んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで行かれている病院を希望している時は、ご希望にそっている。	利用契約時に希望をお聞きし、それに沿った支援に取り組んでいる。入居前からのかかりつけ医利用の方が三分の一ほどおり、家族が受診にお連れしている。他の利用者はホーム協力医の月2回の往診で対応している。合わせて火曜日と金曜日の週2回、契約の訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理を行いオンコール対応も可能となっている。歯科については2週間に1回、定期的な往診があり、入れ歯等口腔内の健康管理も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回は、訪問看護師に見てもらい処置が必要な場合は、見てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は支援カードを作成しお見舞い行く様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度3になりましたら、終末期や特別養護老人ホームのお住み変えの相談をしている。	重度化や終末期についてのホームとしての指針があり利用契約時に家族に対し説明し同意を頂いている。状況の変化に合わせて介護度が3になり入浴が困難な状況に至った時を一つの判断基準とし特別養護老人ホームを含めた住み替え支援を行うことになっている。家族が希望され、医療行為を必要としない状況で当ホームで最期までとお願いをされた場合、医師、看護師、家族と連携を取りながら支援に取り組むようにしている。また、年1回は終末期支援に対する勉強会を行い知識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応はマニュアルで学んでいるが、訓練は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行なっているが、地域との協力が出来ていない。	7月と11月の年2回、消防署員参加の下運営推進会議に合わせ、家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加も頂き実施している。避難、通報、消火の訓練を行い利用者も参加し玄関先まで移動しての訓練を行っている。また、年1回は夜間想定での避難訓練を行い、夜勤の一人で出来ることの確認と通報を受け職員が集まり利用者の避難に取り組むまでの確認をしている。合わせて一斉メールを使い緊急連絡網の確認も行っている。備蓄は「おかゆ」「乾パン」「缶詰」「水」等が三日分用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の希望を聞ける時は聞く様にしプライバシーに配慮し行なう様にしている。	人生の先輩である利用者に対し尊敬の念を込め、なるべく敬語で話し掛け、時には親しみを込め「方言」を交えながら言葉がけをすることもある。トイレ介助には特に気を使い、他の人に分からないようお連れしている。呼び方は基本的に「苗字」をさん付けでお呼びし、入室の際にはノックと声掛けを忘れないように徹底している。年1回プライバシー保護と虐待防止の勉強会を行い意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時々お茶の時など利用者様に好きなものを選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活できているが希望にそって生活ができていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服など選べる方は選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器拭きをスタッフと行っている。	一部介助の方や全介助の方がいるが、時間が掛っても出来るだけ自分で食事をとることにこだわり支援している。献立は冷蔵庫の中の食材を確認し職員が調理しているが、昼食と夕食に肉と魚が重ならないよう気配りし調理している。利用者のお手伝いについては力量に合わせ、盛り付けと食器拭きに参加していただいている。正月、お花見、母の日、クリスマス等には季節感のある豪華弁当をお出ししている。また、家族と外食に出掛ける利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養を考え肉・魚・野菜バランス良く考えている。		

ニチイケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様に合った口腔ケアの支援を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを介護記録に記入しトイレで排泄出来るよう心がけている。	若干名の利用者を除いては何らかの介助が必要な状況であり、リハビリパンツ、パット、オムツ使用など一人ひとりに合わせ対応している。排泄表を用い個々のパターンに合わせてトイレに誘導し、トイレでの排泄できるように支援している。人前で失敗することもあるがそっとシャワー浴にお連れし気持ち良く過ごしていただくよう取り組んでいる。また、スムーズな排便促進を図るためヨーグルト、ゼリーの摂取に心掛けている。更に、パターンを良く掴み、そわそわしだしたらトイレにお連れするなど、トイレでの排泄にこだわることで介護用品の経費負担の軽減にも繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・ヨーグルトなど摂取し、下剤は使用しないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望にそって入浴ができるようにしている。	全利用者が介助を必要としている。毎日入浴を行い、週2回利用者の希望に合わせて入っていただくようにしている。入浴拒否の方もいるが職員を変えたり日を変え、また、「体重測定をしましょう」とお誘いするなど、工夫をしながら入浴できるようにしている。季節に合わせて「ゆず湯」「菖蒲湯」等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼ねを習慣にしている利用者様は状況に応じて行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋など確認し変化に応じて医師と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いけばなや洗濯たたみなど気分転換しながら行なっている。		

ニチイケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○近所の喫茶店に地域の方とお出掛けしている。	外出時、車イス使用の方が半数強おり、他の方は自力で歩ける状況である。日常的に天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、ゴミ出しに外に出たりして外気に触れている。更に、歩ける方は郵便局や隣のデイサービス、町内会長宅等に出掛けている。また、月1回地域包括支援センター主催の「サロンおいでや」にも数名の利用者が参加し楽しいひと時を過ごしている。合わせて筑摩神社のお祭りにも見学に出掛け賑やかな雰囲気を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	喫茶店でお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	最近はお手紙が書ける方がいなくてきている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温・湿度に注意しながら生活している。	一日の大半を過ごす、陽当たりが良く明るいホールにはテレビを見たり会話を楽しみ寛ぎ、思い思いの時間を過ごしている利用者の姿が見られた。壁には誕生会の様子を写した写真や高校生から送られた作品、また、季節の飾りなどが貼られている。ホールの空調はエアコンと床暖房で快適に過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビなど見たかたりした時は一人で見れる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団などは家で使っている物を持ってきてもらう様にしている。	広い居室には大きなクローゼットが備え付けられ、すべての物が収納できることから整理整頓も行き届き、綺麗な中で自由に生活を送っている。各居室ともさっぱりとしているが壁には家族の写真やぬり絵等の作品、誕生日カード等が飾られ、使い慣れた家具等を持ち込まれている居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でできることを生かし支援している。		